

学校だより

令和6年4月30日(火) 第2号

心の豊かな生徒・自ら学ぶ生徒・強くたくましい生徒

さいたま市立西原中学校

住所 さいたま市岩槻区大字岩槻3750番地

電話 048-756-1117

学校 Web ページ <https://nishihara-j.saitama-city.ed.jp/>

コミュニティ・スクール3年目を迎えて

校長 細井博幸

実に7年ぶりに満開の桜のもと入学式が行われましたが、その後の温かさや強風もあり、見頃はあっという間に過ぎ、すっかり葉桜となっています。今は、1階昇降口脇のハナミズキが白い花を咲かせ、目を楽しませてくれています。



さて、前号では、本年度の学校経営方針についてお伝えし、本年度の重点課題の一つとして学校運営協議会を取り上げました。これは、昨年度実施の学校評価、保護者対象アンケート「学校は保護者や地域の人々との連携を図って教育活動を進めている。」に対する肯定的な回答の割合が、85.4%から78.4%へと7%低下したことを大きな課題と受け止め設定いたしました。そこで、3年目となるコミュニティ・スクール制度について今一度振り返り、目指す学校像「地域の学校として学校・家庭・地域が連携・協働し、社会に貢献できる人材を育む学校」に向けて保護者、地域の皆様にも学校との連携についてお考えいただきたいと考えております。

令和4年度よりさいたま市では、全ての市立学校がコミュニティ・スクールとなり、「学校運営協議会」が設置されました。これまでにあった「学校評議員制度」が「学校運営に関して地域住民や保護者等の意見を聞くための制度」であったのに対し、「学校運営協議会」は「校長が作成した学校運営に関する基本的な方針を承認するなど、地域住民や保護者等が学校運営に参画し、連携・協働して学校運営に直接関わる仕組み」です。さいたま市のリーフレットでは、以下のような効果が期待されています。

<p>児童生徒には・・・</p>  <ul style="list-style-type: none">• 学校内外の学習環境がより豊かになります。• 地域への愛着が芽生え、地域の担い手としての自覚が生まれます。• 多くの大人の姿をモデルとし、自分たちが学んだことを生かして生活や地域の課題を解決しようとしています。	<p>保護者には・・・</p>  <ul style="list-style-type: none">• 学校や子どもを核としてつながった保護者同士や、地域の人達との絆が、多くの人に見守られて子育てをしているという安心感を与えてくれます。• 学校や地域への理解が深まり、愛着が高まります。
<p>学校（教職員）には・・・</p>  <ul style="list-style-type: none">• 地域住民や保護者の理解と信頼を得て、充実した学校運営が実現します。• 子どもの成長に対する責任を分かち合い、役割分担が適切に図られることで、教職員が子どもと向き合う時間の確保につながります。	<p>地域住民には・・・</p>  <ul style="list-style-type: none">• 学校に地域の人々が集い話し合い、共に課題解決に取り組むことで緩やかなネットワークがつくれ、地域全体の活性化につながります。• 学校や子どもを核としてつながった仲間や団体同士の活動が、地域の人々に安心感と生きがいを与えます。

「さいたま市教育委員会作成リーフレット」より

本校の学校運営協議会は、地域の有識者、保護者、教職員等23名の委員で構成されています。西原小学校と合同で行っておりますが、本年度は5月31日(金)に実施される1回目をそれぞれの学校で実施することで、学校運営協議会委員の話し合う(熟議)時間を確保し、学校が地域・保護者の思いをより一層受け止められるような工夫をしております。学校運営協議会の様子については、ホームページ等で随時発信してまいりますので、地域、保護者の皆様におかれましても、学校運営協議会の活動に御注目いただきますようよろしくお願いいたします。